

<第35回調査>

2012年5月1日

【本調査の目的】

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

【調査実施期間】

2012年4月17日(火)13:00~2012年4月24日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

【調査対象】

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

【調査方法】

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は1402件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

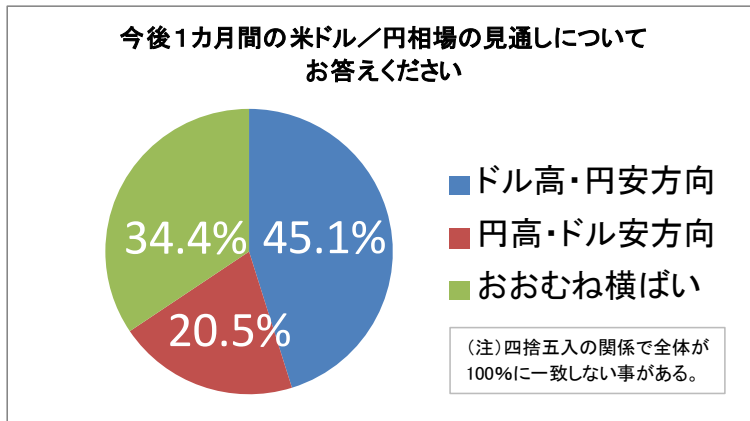
Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第35回調査結果略報：ドル円強気予想がやや後退】

問1：今後1カ月間の米ドル／円相場の見通しについてお答えください

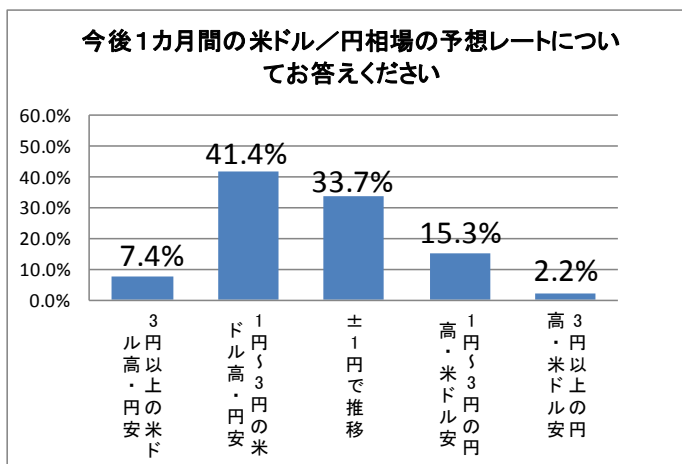
「今後1カ月間のドル円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が45.1%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合が20.5%となった。この結果、「ドル円予想DI」は+24.6%ポイントとなり、ドル高・円安予想を5ヶ月連続で維持したものの、前回調査に比べDIのプラス幅は大きく縮小した。調査期間中のドル円相場は、80.33円～81.78円という狭いレンジでもみ合いが続いたが、前回調査期間中に付けた高値84.17円からみると3円前後下落している。前回調査においてドル円予想DIは+54.5%ポイントという過去最大のプラスを記録したが、その後の相場反落を受けて、FX投資家のドル高・円安見通しに陰りが見え始めているようだ。

※過去のドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル／円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間のドル円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」が41.4%と最も多く「±1円で推移」が33.7%、次いで「1円～3円の円高・米ドル安」が15.3%、「3円以上の米ドル高・円安」が7.4%、「3円以上の円高・米ドル安」が2.2%の順になった。ヒストグラムの形状はドル高・円安側に傾いており、問1の結果と整合的である。ただし、前回調査に比べると「1円～3円の米ドル高・円安」の割合が低下した一方で「±1円で推移」の割合が増加しており、この点からもFX投資家の強気(ドル高・円安)予想に陰りが感じられる。

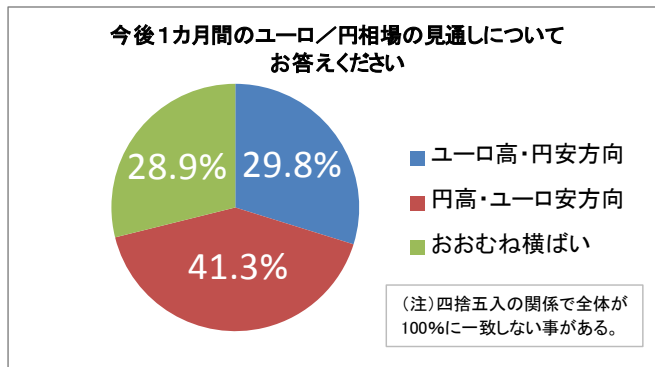


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問3: 今後1か月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

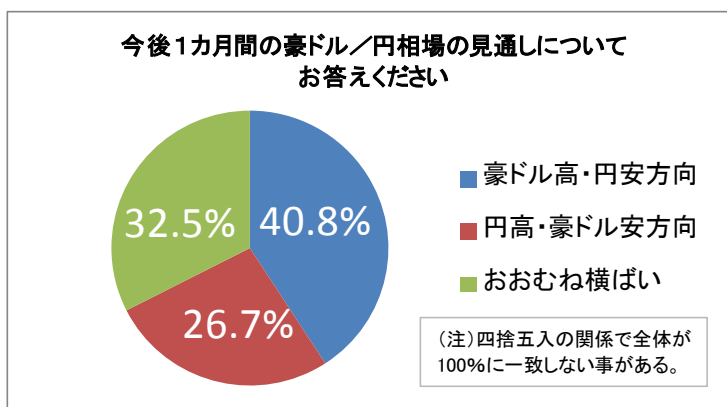
「今後1か月間のユーロ円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が29.8%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が41.3%となった。この結果、「ユーロ円予想DI」は-11.5%ポイントとなり、再びマイナスDIに転落し、FX投資家のユーロ円強気予想はわずか1ヶ月しか維持されなかった。調査期間中のユーロ円相場は、105.28円から108.00円のレンジで比較的堅調に推移した。しかし、フランスに続きオランダでも政局の不安定化が伝えられており、最大の課題である財政赤字の削減が目標どおりに進まない可能性が出てきた。ギリシャでも5月に総選挙が行われ、連立与党の敗北が見込まれるなど「欧州の政治リスク」がFX投資家のユーロ円安予想に繋がったと考えられる。※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問4: 今後1か月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1か月間の豪ドル円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が40.8%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合が26.7%となった。この結果「豪ドル円予想DI」は+14.1%ポイントとなり、プラスを維持したものの2か月連続でその幅は縮小した。調査期間中の豪ドル/円相場は、物価の伸びに抑制が示された事で5月の利下げは確実との見方が広がり、一時82円台まで下落するなどやや軟調に推移した。ただ、市場の関心は早くも6月以降の追加利下げの有無に移っており、5月の利下げが豪ドルの大幅下落に繋がるとの見方は後退しているようだ。こうした見方が、FX投資家の豪ドル高・円安予想を支えた可能性がある。

※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

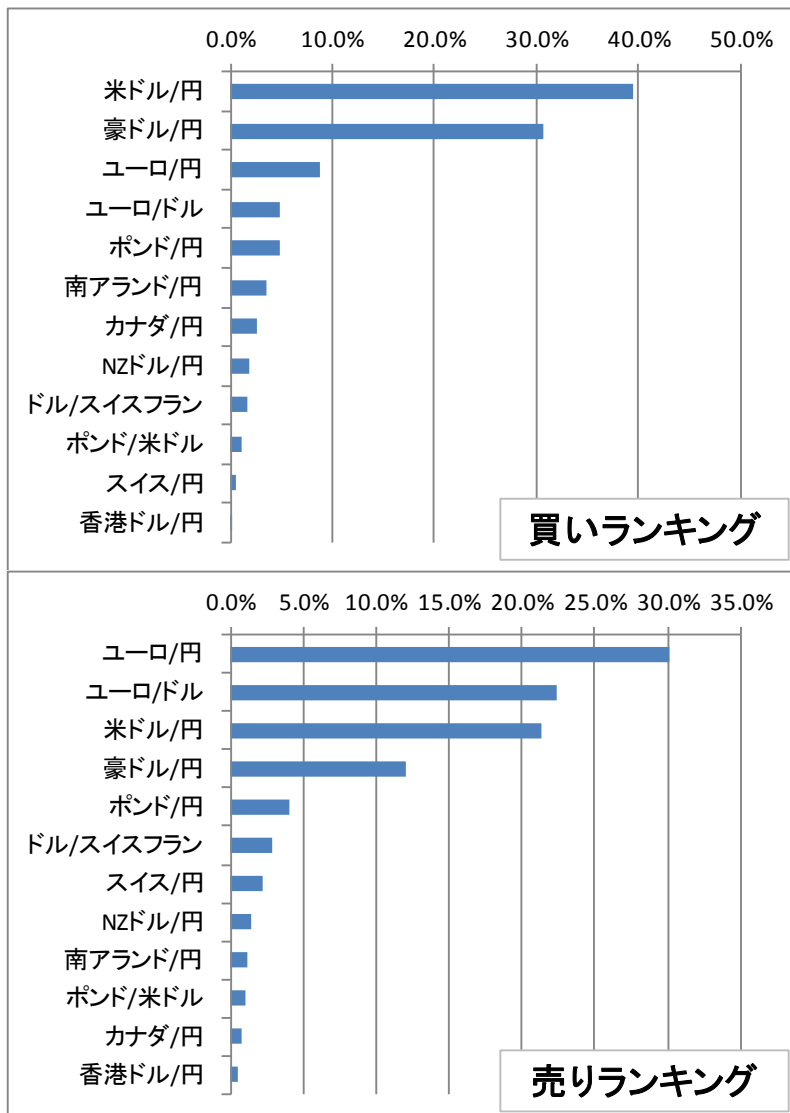


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

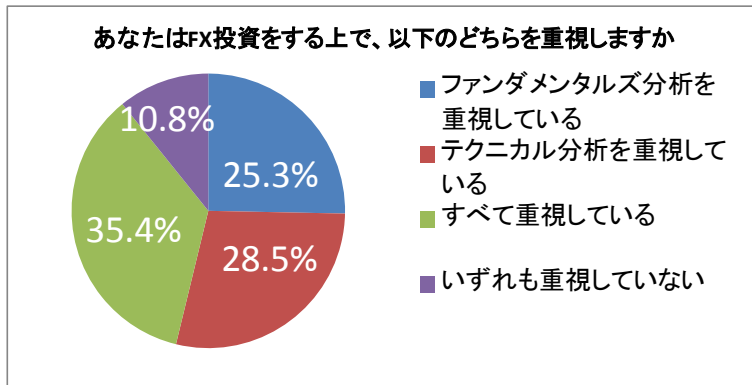
「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位ドル円(39.4%)、2位豪ドル円(30.7%)、以下3位ユーロ円(8.8%)、4位ユーロドル(4.9%)、5位はポンド円(4.8%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ユーロ円(30.2%)、2位ユーロドル(22.4%)、3位ドル円(21.4%)、4位豪ドル円(12.1%)、5位ポンド円(4.0%)となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、ドル円が1位の座をキープしたが、問1や問2の結果と同様に、その回答割合は低下している(前回調査では54.3%)。一方、前回調査で「売り」で注目のトップであったユーロドルは、回答割合を31.7%から10%近く低下させて2位に転落した。ドル円もユーロドルも、ここまでの1ヶ月間についてはFX投資家の見立てどおりの値動きとはならなかった。このため、自身の予想を修正したFX投資家が少なからずいたようだ。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

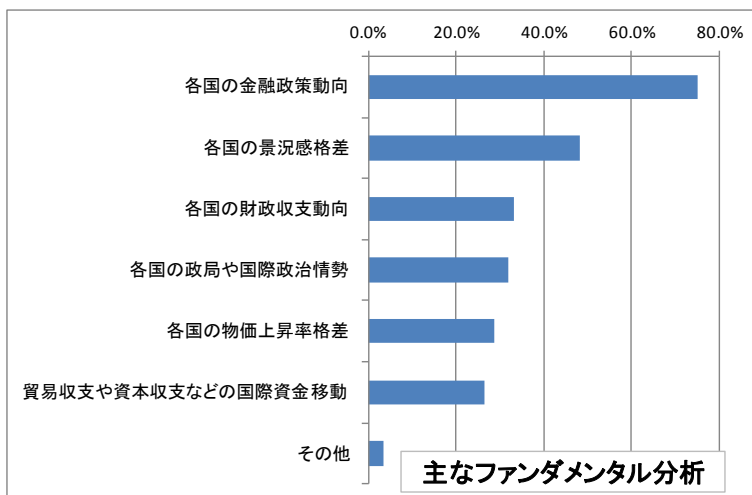
問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視する」と答えた割合が25.3%であったのに対し「テクニカル分析を重視する」と答えた割合が28.5%という結果となった。また「すべて重視している」と答えた割合が35.4%と引き続き最も多く、「いずれも重視していない」は10.8%であった。調査開始以来ほぼ3年になるが、こうした回答割合に目立った変化は見られない。FX投資家の分析スタイルは、ほぼこの割合で固まっていると見られ、相場動向や自身の予想には左右されにくいようだ。



問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか?

「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(75.2%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(48.2%)」、「各国の財政収支動向(33.1%)」、「各国の政局や国際政治情勢(32.0%)」、「各国の物価上昇率格差(28.6%)」の順に続いた。今回も「各国の金融政策動向」が他を大きく引き離して8割近い回答割合を集めた。一方で「貿易収支や資本収支などの国際資金移動(26.6%)」と答えた割合は今回も最も少なかった。海外投資家の間では、本邦貿易収支の赤字化を円安材料として捉える向きが多いようだが、FX投資家の間ではこうした見方は意外に少ないようだ。

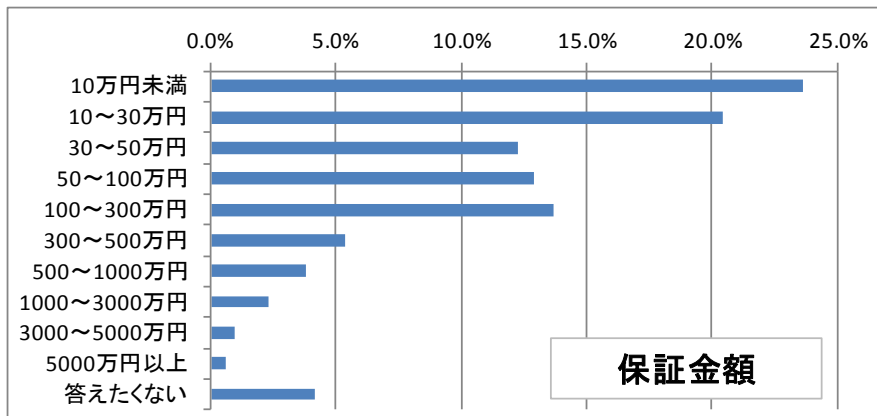


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

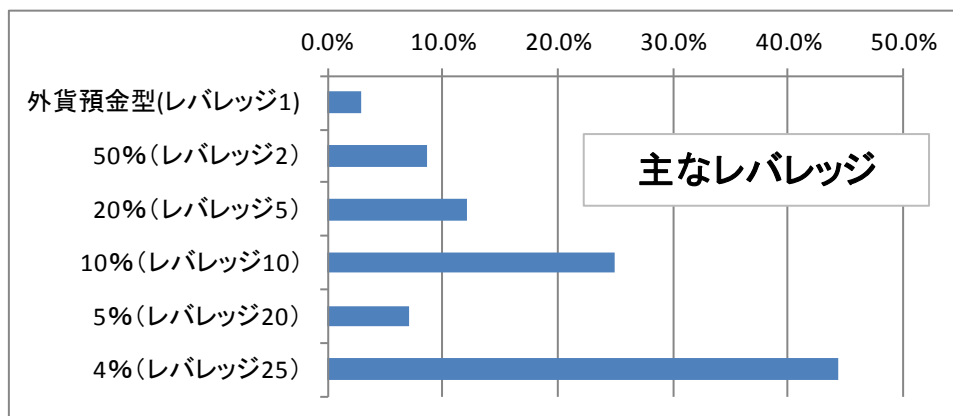
問8: FX取引の際の保証金の額についてお答えください

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が23.6%と最も多く、以下「10～30万円(20.5%)」、「100～300万円(13.7%)」、「50～100万円(12.9%)」と続き、前回調査と比べ、順位、回答割合とも概ね同じ結果となった。100万円以下の保証金で取引を行うFX投資家の合算割合が69.3%となった一方で、1000万円以上の保証金で取引を行うと答えた合算割合は3.8%にとどまった。ただ、過去3年間の平均は100万円以下が73.0%、1000万円以上は2.6%であり、初めてこの質問をした第3回調査の回答割合はそれぞれ81.9%と0.9%であった。徐々にではあるが、FX投資家が保証金の額を増やし始めていると言えるだろう。



問9: FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「4%(レバレッジ25)」と答えた割合が44.4%と最も多く、「10%(レバレッジ10)」が25.0%、「20%(レバレッジ5)」が12.1%と続き、以下、「50%(レバレッジ2)」が8.6%、「5%(レバレッジ20)」が7.0%と続いた。昨年8月のレバレッジ規制以降は、「4%(レバレッジ25)」と「10%(レバレッジ10)」の合計で70%前後を占める傾向が続いている。この間、回答割合にも大きな変化はなく、FX投資家のレバレッジ選択については、相場動向や予想の自信度によって強弱を付ける事なく、ほぼ固定化されているようだ。この点については、自分なりの投資スタイルを確立しているFX投資家が多い事を物語る。

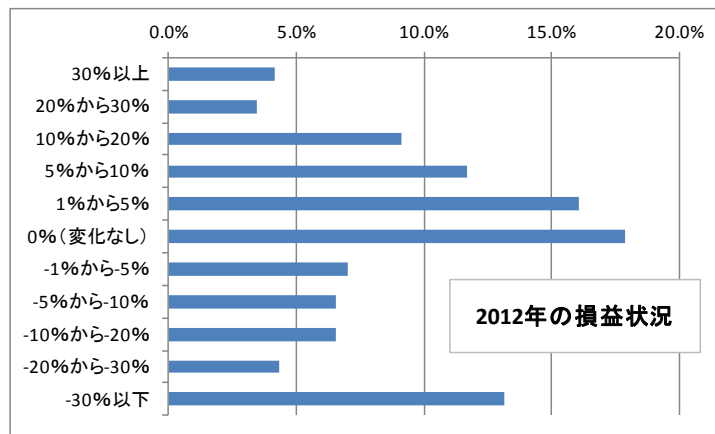


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

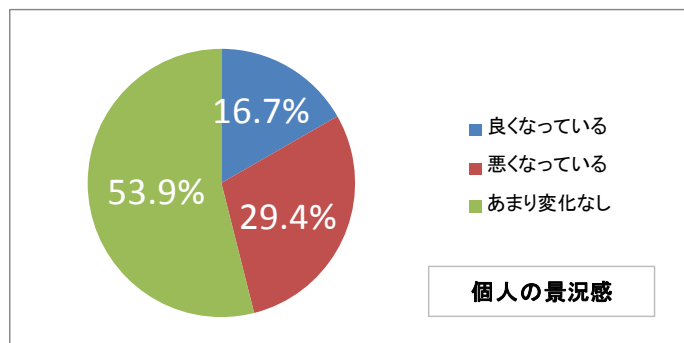
**問10: 2012年これまでのFX取引におけるトータルの収支状況は、どの程度ですか？
また、損益について最大の要因は何だと思われるか、コメント欄にお書き下さい。**

今月の特別質問項目として、2012年これまでのFX取引におけるトータルの収支状況は、どの程度ですか？とたずねたところ「0%(変化なし)」が17.9%と最も多く、次いで「+1から5%(16.1%)」、「-30%以上(13.1%)」、「+5から10%(11.7%)」、「+10から20%(9.1%)」と続いた。全体では、プラスが44.4%、マイナスが37.7%と利益が出たFX投資家がやや多かった。また、損益について最大の要因は何かを自由記述形式でたずねたところ、利益が出たFX投資家からは「円安の波に上手く乗れた」「こまめに利益確定」「自分のルールを厳守できた」などが挙げられた。一方損失を出したFX投資家からは「相場の読み違い」「損切りが上手くできなかった」などの声が多かった。やはり、トレンドに乗る事と、読みが外れた場合のルールの確立がFX投資成功のための重要なポイントと言えるだろう。



問11: あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)

今月のもう一つの特別質問項目として、あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)とたずねたところ、「良くなっている」と答えた割合が16.7%、「悪くなっている」が29.4%、「あまり変化なし」が53.9%という結果になった。1月に実施した第32回調査で同じ質問をした際の回答割合は、順に8.9%、41.2%、49.9%であった。3ヶ月前に比べると「良くなっている」が増加し、「悪くなっている」が減少しており、FX投資家の「景況感」はやや改善していると見られる。問10の結果のように、FX投資において利益が出た投資家が損失を出した投資家より多かった事も「景況感」の改善につながったと思われる。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第35回目となりました。調査開始後3年近くが経過し、前月との対比での時系列比較だけでなく、前年同期との比較も可能になってきました。しかしながら、まだ十分な時系列データの蓄積は進んでおりません。このため、現時点では統計分析に深みを持たせるために必要不可欠な長期間に渡る時系列比較を十分に提示することはできていませんが、今後、毎月定点観測で実施する調査結果の蓄積が進むにつれて、DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握も可能になってくることが期待されます。

毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年中央以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

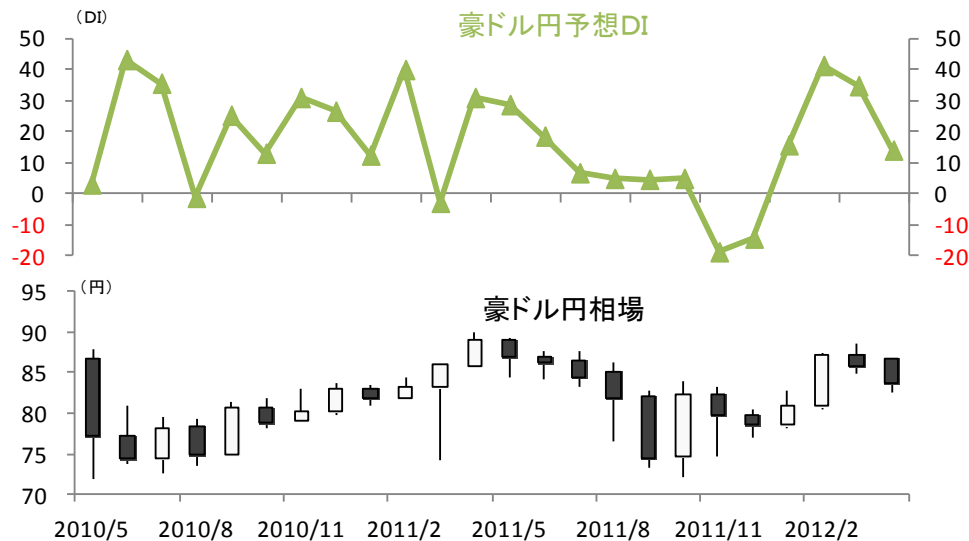
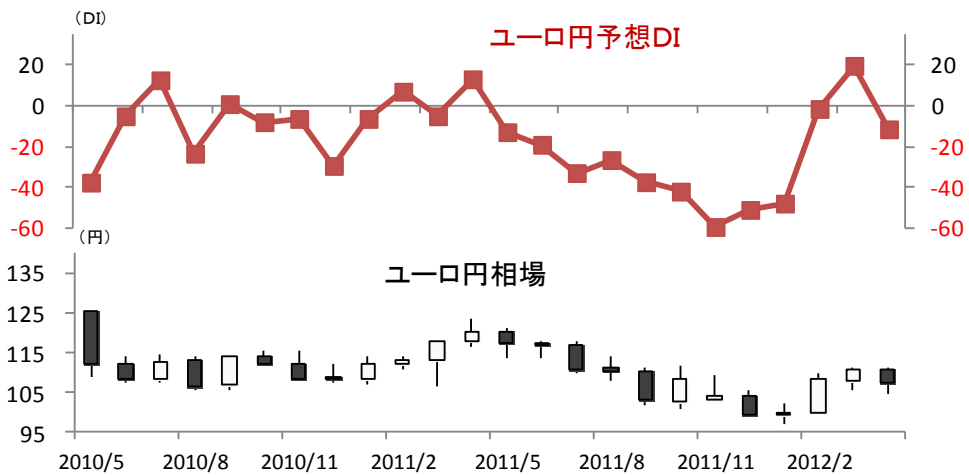
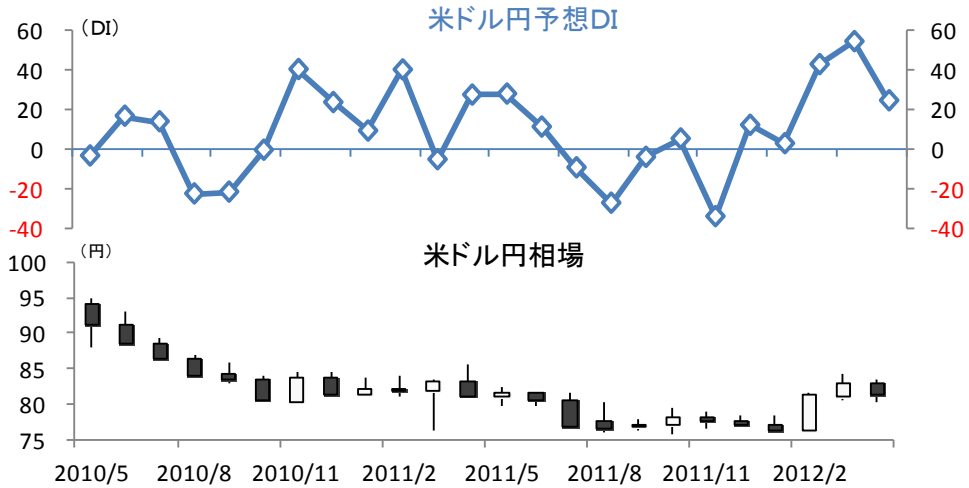
		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円			
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI	
2010年	5月	33.9	37.2	-3.3	21.4	59.1	-37.7	40.3	37.1	3.2	
	6月	35.9	19.1	16.8	32.9	38.0	-5.1	58.7	15.5	43.2	
	7月	40.8	26.8	14.0	41.8	29.2	12.6	53.9	18.3	35.6	
	8月	26.0	48.5	-22.5	25.2	48.7	-23.5	34.5	35.6	-1.1	
	9月	22.3	43.9	-21.6	36.7	35.8	0.9	47.8	22.5	25.3	
	10月	37.3	37.7	-0.4	29.3	37.3	-8.0	38.9	25.8	13.1	
	11月	57.4	17.0	40.4	28.2	34.6	-6.4	48.0	17.0	31.0	
	12月	42.9	19.2	23.7	19.2	48.7	-29.5	44.0	17.4	26.6	
	1月	33.0	23.7	9.3	31.8	38.2	-6.4	37.3	24.8	12.5	
	2月	53.2	13.0	40.2	33.6	26.6	7.0	54.8	14.8	40.0	
	2011年	3月	38.7	43.9	-5.2	35.1	40.2	-5.1	37.7	40.4	-2.7
		4月	48.2	20.7	27.5	43.8	30.7	13.1	51.0	20.0	31.0
5月		44.3	16.3	28.0	29.4	42.3	-12.9	47.7	19.0	28.7	
6月		33.4	22.1	11.3	25.2	44.3	-19.1	41.2	22.6	18.6	
7月		29.4	38.7	-9.3	22.3	55.3	-33.0	36.2	29.4	6.8	
8月		18.1	45.3	-27.2	20.8	47.4	-26.6	36.3	31.3	5.0	
9月		23.9	27.9	-4.0	21.0	58.5	-37.5	36.4	31.7	4.7	
10月		26.3	21.0	5.3	19.4	61.5	-42.1	40.0	35.0	5.0	
11月		14.5	48.5	-34.0	12.1	71.6	-59.5	26.3	44.9	-18.6	
12月		30.2	18.0	12.2	13.5	64.6	-51.1	27.1	41.3	-14.2	
2012年		1月	25.0	22.1	2.9	17.9	65.9	-48.0	40.5	24.7	15.8
		2月	57.4	14.5	42.9	36.1	37.6	-1.5	59.1	17.8	41.3
	3月	67.0	12.5	54.5	43.4	23.7	19.7	52.5	17.7	34.8	
	4月	45.1	20.5	24.6	29.8	41.3	-11.5	40.8	26.7	14.1	

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表: 主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



(出所) 外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com